


# 中学部の取組



◆研究の実際	2 1
◆各学年の実践	2 3
◆中学部のまとめ	2 6

## 中学部の研究について

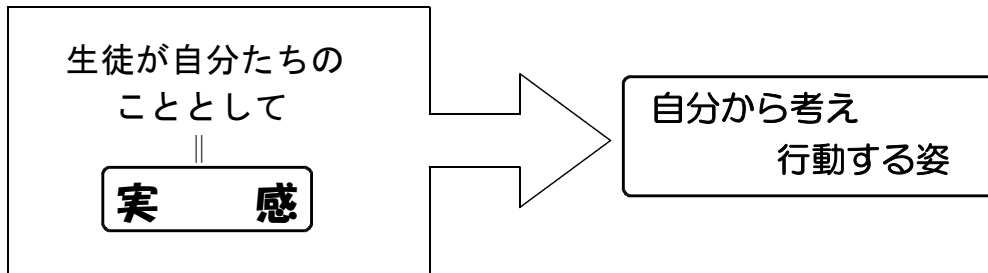
### 【学部のテーマ】

一人一人が実感をもって活動に取り組み、自分たちで成し遂げる生活単元学習の実践

### 1 設定理由

今年度も昨年度と同様のテーマで研究を進めた。生徒が自分たちのこととして学習を捉え、課題解決することができれば、その経験は生徒にとってより自分のものとして積み重なり、自分からその経験を活用して行動する姿につながるのではないかと考え、学部の目指す姿を「一人一人が実感をもって活動に取り組み、自分たちで成し遂げる姿」とし、学部の研究テーマを設定した。

「実感」をキーワードとして実践してきた昨年度の成果として、「自分で気付き、進んで取り組む姿が多く見られた」「最小限の教師の支援で、試行錯誤しながら何とかやり遂げようとする姿が見られた」「生徒同士で教え合う場面が見られるようになった」という生徒の変容が上げられる。しかしながら、「生活単元学習で見られるようになった姿、身に付いた力を、他の場面で発揮することが難しい」という課題が残った。この課題に迫るためには、今年度の全校研究主題にある「何を学んだか」「何ができるようになったか」という視点が大事であると考え、授業づくりにおいて中学部で大切にしていきたいことをテーマにワークショップを行った。そこから、「頑張ったことも感じられるような授業を行う」「きちんと評価するためには目標の明確化が大切」ということが出された。



### 2 研究の内容と方法

#### (1) 長期的なテーマに沿った生活単元学習の実践

- ・年間を通して繰り返し展開していく中で、教師が意図をもって少しずつ発展させる指導計画立案
- ・個々の目指す姿の設定

#### (2) 生徒が実感をもてる評価の工夫

- ・「何を学んだか」「何ができるようになったか」「何を頑張ったか」を感じられる評価の工夫
- ・ワークシート等の活用

#### (3) 生徒の変容の評価と授業改善

- ・各単元の発展、「何を学んだか」「何ができるようになったか」の視点からの評価のポイントとなる手立てに着目した、計画段階、評価段階でのベースミーティングの活用

### 3 研究の実際

#### (1) 長期的なテーマに沿った生活単元学習の実践

3学年がそれぞれ学年別に、長期的なテーマを設定し、生活単元学習を実施した。年度初めに、各学年の生活単元学習担当者や学部主事、研究部等でのミーティングを設定し、

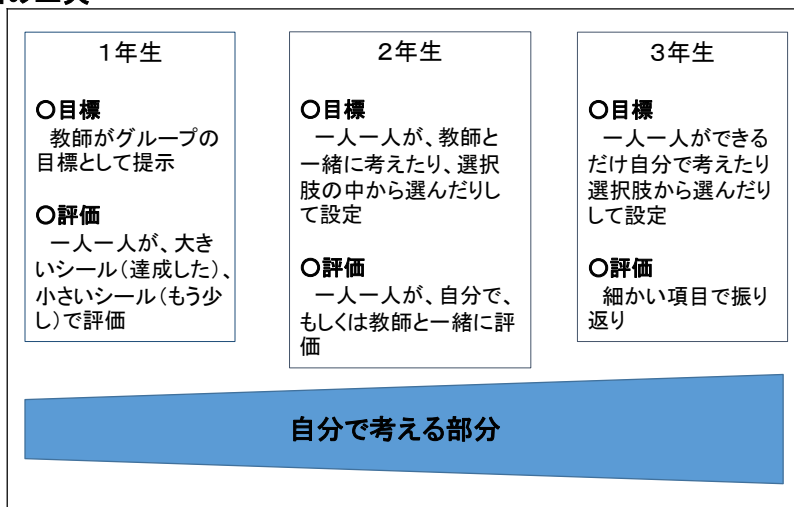
これまでの研究とのつながりや、各学年のこれまでの学習歴を考慮しながら、それぞれの年間指導計画について意見交換をした。小単元のゴール（目指す姿）や次への発展のさせ方、地域との関わりの広がりについても検討し、より効果的な指導計画を目指した。

<p><b>1年生 「ベジフルみどり」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○野菜の栽培や収穫、調理などを主な活動とした長期的な単元           <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養の学習や制作など多岐にわたる活動を取り入れ、経験や挑戦の積み重ね</li> <li>・繰り返しの活動（野菜の栽培→収穫→買物→調理→壁新聞作り）</li> <li>・自分たちで活動を進めるよう、グループ別活動時にリーダーとなる生徒を配置</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>2年生 「中2フラワープロジェクト」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○花の栽培・収穫から加工品作り、販売を主な活動とした長期的な単元           <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場所での販売を通じた、人との関わりの経験</li> <li>・繰り返しの活動（企画→制作→販売準備、練習→販売）</li> <li>・生徒同士で話し合い→決定→実践→改善の積み重ね</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>3年生 「中3ショップ！」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手作りパンを提供する「中3ショップ」開店を主な活動とした長期的な単元           <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋台スタイルによる、イベント等への出店</li> <li>・繰り返しの活動（ショップ会議→調理→開店準備→開店練習→開店）</li> <li>・生徒同士で話し合い→決定→実践→改善の積み重ね</li> </ul> </li> </ul>

各学年の実践にあたっては、単元を年間を通してパート1、パート2と行う中で、教師が意図をもって少しずつ発展させる指導計画の立案に努めてきた。

## （2）生徒が実感をもてる評価の工夫

生徒たちは、活動を自分たちのこととして取り組む様子が見られるものの、授業で身に付いた力を他の場面で発揮できないのはどうしてかを考えたとき、身に付けた力を実感できていないからではないかと考えた。そこで、生徒が身に付けた力を実感することも授業のポイントと考え、これまでの個々の目標設定や振り返りの仕方を見直した。




各学年の目標の設定と自己評価の仕方では、学年を追うごとに自分で考える部分が多くなるというように、ステップアップしていった。

## （3）生徒の変容の評価と授業改善


各単元の計画段階ばかりでなく、評価段階でもベースミーティングを実施し、PDCAサイクルでの授業づくり、授業改善を行った。計画段階のミーティングでは、今回の単元で大切にしたいポイントを明確にし、教師の共通理解を図ったり、目標達成に向けた手立てを検討したりすることができた。また、評価段階でのミーティングでは、単元を振り返り、生徒の変容や効果的な手立てを検証し、次単元の発展部分や教師の意図（育てたい力）を明確にして次の授業につなげていくことができた。

## 4 各学年の実践

### (1) 1年生

<b>単元名</b>	ベジフルみどり ＊『ベジフル』とは、野菜や果物を教材として取り入れた学習を指す造語
<b>単元の年間目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のやるべきことが分かり、役割にすすんで取り組む。</li> <li>・「ベジフルみどり」の活動を通して、友達や教師と協力して取り組むことへの楽しさを感じたり、適切な関わり方を身に付けたりする。</li> <li>・栽培、買物、調理、作品作りなどの経験を通して、得意なことを増やす。</li> </ul>
<b>キャリア教育全体計画との関連</b>	観点1 単元のゴールの明確化による意欲の喚起 観点3 他者と主体的に関わり、協力することによって目的を達成する経験 観点4 自分が役割を果たせた達成感
<b>ポイントとなる手立て</b>	<p><b>○やるべきことが分かって取り組むための手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールまでの見通しをもちやすくするために、活動内容をイメージしやすいイラストを用い、1日または小単元全体の学習予定を視覚的にも提示する。</li> <li>・生徒にとって身近な野菜や果物を題材に取り入れ、「育てる」「作る」「食べる」「もてなす」「経験を新聞にまとめる」といったサイクルを繰り返し行う。</li> <li>・自信をもって活動に取り組める環境を整えるために、初めて経験する活動や慣れない活動は、教師が分かりやすい手本を示したり、類似した経験を引き出したりしながら一緒に取り組む。</li> </ul> <p><b>○友達や教師と協力するための手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士で協力しやすい環境を整えるために、活動に応じて2～3の小グループに分ける。また、リーダー的な生徒を中心としながら、生徒同士で話し合っ活動内容や手順を考えたり、分担を決めたりする場面を設定する。</li> <li>・自然に生徒同士の協力場面が生まれるように、教師の基本姿勢は見守りとした上で、重たい土を運ぶ、調理工程が多いメニューを設定する、大きな制作物を作るなどの粗大的な体験活動を多く取り入れる。</li> </ul> <p><b>○経験を通して「何を学んだか」「何ができるようになったか」といった達成感を感じられるための手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的をもって活動するために、授業の始めに目標や役割分担を提示する。</li> <li>・過去の経験を積み重ねられるように、同じグループ、同じ手順で繰り返し取り組める活動を設定する。また、失敗したり悩んだりした経験から深い学びにつながるように、生徒に計画や進行を委ねる場面を意識的に取り入れる。</li> <li>・経験の積み重ねを視覚化するために、毎時間の終わりにその日の目標の達成度に応じて、色や大きさの異なるシールを貼り、自己評価する場を設ける。</li> <li>・より大きな達成感につなげるために、特に頑張りが見られた生徒を教師が選出し、特別なシールを渡して称賛する。</li> </ul>
<b>生徒の変容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し経験し、活動に見通しをもてたことで、入学当初は消極的だった生徒が、自信をもって意欲的に活動に参加するようになった。また、気持ちのコントロールが難しかった生徒が、友達と協力しながら時間いっぱい学習に参加できるようになったことを自覚し、自信をつけた。</li> <li>・多様なグルーピングで学習を展開したことで、各グループのリーダーを中心に、生徒同士の関わりが深まった。お互いの良い面を認め合い、教師に代わって肯定的な他者評価をする様子が出てきた。</li> <li>・目標を意識しながら活動に取り組んだことで、適切な自己評価をする生徒が増えた。例え評価が低くても、次の学習ではどのような所に気をつけたいかを前向きな言葉で教師に伝えられるようになった。</li> </ul> <div data-bbox="1206 1711 1423 1899" style="text-align: right;">  <p>調理学習での協力場面</p> </div>

(2) 2年生

<p>単元名</p>	<p>中2フラワープロジェクト</p>
<p>単元の年間目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を理解し、自分から進んで取り組んだり、自分で考え判断したりしながら最後まで活動が続ける。</li> <li>・フラワープロジェクトの活動を通して、様々な人との適切な関わり方や、状況に応じた話し方を身に付ける。</li> <li>・仲間と一緒に大きな目標に向かってやり遂げることで、達成感や充実感を味わう。</li> </ul>
<p>キャリア教育全体計画との関連</p>	<p>観点1 自らの課題を主体的に解決しようとする機会の設定 試行錯誤しながら目標を達成しようとする機会の設定</p> <p>観点3 相手の立場に応じた関わり 論点やゴールを共有した話し合い活動の充実</p> <p>観点4 自分が役割を果たせた実感</p>
<p>ポイントとなる手立て</p>	<p><b>○自信や責任をもち、自分たちで活動を進めるための手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちの希望を生かしながら、製作した物を販売することを柱とする。</li> <li>・製品内容や役割分担、準備物など、話し合う場面を設ける。</li> <li>・昨年度の経験をもとに取り組みの内容にする。</li> </ul> <p><b>○接客を通じた人との関わりを学ぶための手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは比較的身近なところから販売を行う（本校の夏祭り）。その後、隣接の総合教育センター、地域へと広がっていく。</li> <li>・PTA授業参観で保護者にお客さん役をしてもらうなど、事前の接客練習を重ねる。</li> <li>・憧れの中3の先輩から、接客について直接教えてもらう機会を設ける。</li> <li>・接客において気を付けるポイントを分かりやすく提示し、その中で自分が目標とするところを抑える。</li> </ul> <p><b>○みんなで一つの目標を達成することを実感できるための手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分担して活動していても一体感を感じられるよう、全員での振り返りで進捗状況を確認したり、個々の頑張りを伝え合ったりする。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><b>○「何を学んだか」「何ができるようになったか」という視点から</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を意識しながら活動できるよう、教師と一緒に毎授業の目標をその都度考え、振り返る活動を繰り返し設定する。</li> <li>・目標設定のヒントとなるように、生徒たちが洗い出した、製作する際の「気を付けるポイント」を書いて掲示する。その中から、自分が目指すところを目標とするように伝える。</li> </ul>
<p>生徒の変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「販売」＝「お金をもらう」ことに、喜びだけでなく、「よい物を作らなければ」「お客さんに喜んでもらいたい」「お客さんの気持ちになって」と考えるようになった。</li> <li>・「買ってもらうために」がキーワードになり、より丁寧な製品作り、熱心な接客練習につながった。</li> <li>・授業の始めに目標を立てる(担当教師と一緒に・一人で)→最後に振り返ることを繰り返したことで、自分の目標達成に向かって責任をもって活動する様子が見られた。</li> <li>・話し合い活動に慣れ、自分の意見を積極的に出すようになった。それは他の学習場面でも少しずつ見られるようになってきている。</li> <li>・普段は接することのないお客さんと関わることで、身近な友達にも緊張せず、自分から接する様子が見られた。</li> </ul> <div data-bbox="1061 1579 1380 1825" style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: right;">総合教育センターでの販売</p>

(3) 3年生

<p><b>単元名</b></p>	<p>みんなでやるぞ！中3ショップ</p>
<p><b>単元の年間目標</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を理解し最後まで取り組んだり、友達と考えを伝え合ったりしながら、目的を成し遂げる達成感や成就感を味わう。</li> <li>・ショップの活動を通して、様々な場所や状況で適切に行動したり、話し合いながら課題を解決したりする。</li> </ul>
<p><b>キャリア教育全体計画との関連</b></p>	<p>観点1 自分で考える、経験の積み重ねによる肯定的な自己理解・他者理解          観点3 他者への気持ちを伝える力、他者との折り合い          観点4 自分の役割（達成感、充実感、所属感）</p>
<p><b>ポイントとなる手立て</b></p>	<p><b>○生徒が自分たちのこととして実感をもって活動に取り組むための手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショップの開店に関わることのほとんど全てを、自分たちで話し合って決め、実行する経験を重ねるようにする。その中で、自分たちで改善できる課題点を明らかにできるように、自分たちで感じたことやお客さんの声を記録しておく。</li> <li>・より生徒の考えが反映されたショップとなるように、教師は生徒の発言を記録したり、次につながるつぶやきを取り上げて全体に投げ掛けたりするなど、生徒間をつなぐ役割を意識的に担う。</li> </ul> <p><b>○全員が自分の力を発揮しつつ、みんなで目的に向かうための状況設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ショップ会議」「チラシ制作」「グッズ製作」など、生徒の得意な活動を生かした内容やグループを設定しつつ、互いの活動を見合ったり、他グループの友達の活動を話し合いのテーマにしたりして、全員が連動して取り組んでいることが実感できるような展開に努める。</li> </ul> <hr/> <p><b>○「何を学んだか」「何ができるようになったか」という視点から</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に応じて、目標設定や振り返りの手立てを工夫する。              (例・目標や成果の視覚化～ワークシート、出来高表の活用、完成写真の提示)</li> <li>・頑張りや良かった点を実感するとともに、適切な振り返り（自己評価）につなげられるように、教師による称賛や友達同士の認め合いなどの即時評価を意識的に取り入れる。</li> <li>・自分たちの取組が発展してきていることや、自分の成長を実感できるように 過去の写真や動画などを活用して、今の自分たちと比較する場面を設定する。</li> </ul>
<p><b>生徒の変容</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分でやりたいこと」だけではなく、これまでの経験から、「自分たちの力でできること」という視点で開店に向けた話し合いができるようになった。</li> <li>・活動内容やスケジュールなどを自分たちで決めたことによって、見通しをもって取り組んだり、必要な準備を、開店日から逆算して考えたりすることができるようになった。</li> <li>・ワークシート等で目標が視覚化されたことで、意識して臨むとともに、振り返りのポイントが明確になり、自分の頑張りや反省を具体的に話すことができる生徒が増えた。</li> <li>・活動グループを超えた話し合いテーマの設定や友達同士での評価場面の設定によって、グループ間の連携や一体感が目に見えて分かるようになり、全員が連動して目的の達成を目指すことができた。</li> <li>・初めてのことに直面しても、これまでの経験を生かすことができる点に気づき、自分たちの力で判断したり、協力したりすることができた。</li> </ul> <div data-bbox="1027 1413 1394 1659" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">話し合いの場面より</p>



## 5 中学部のまとめ(成果と課題)

### (1) キーワード「実感」から

長期的なテーマに沿った生活単元学習を実践し、その中で評価にも実感をもてるような工夫を行ってきたことで、次のような生徒の変容が見られた。

- ・「自分（たち）」で活動することが定着し、友達と楽しんだり、責任をもって活動したりする姿が見られた。
- ・友達の頑張りを認め、みんなで一つのことを達成しようという一体感が感じられた。
- ・毎時間、設定した目標を意識し、その目標に向かおうと活動する姿が見られた。
- ・前回の自分の評価をもとに、次の目標を考えることができるようになった。
- ・できなかったことも受け止め、次に頑張ろうと思うようになった。

このような変容は、昨年度から「実感」をテーマに授業作りに取り組んできた成果と考える。また、みんなで共有する達成感のみならず、生徒一人一人が目標意識をもって活動し、できたことを「実感」できたからこそとも考える。

さらに、生単で学んだことが他の場面で発揮された姿として、次のような生徒の様子が見られた。これらは、生単で積み重ねた「できた」「学んだ」「頑張った」と、自分の身に付いた力を実感したからこそ、他の場面で発揮できたものと考えられる。

- ・普段関わりのない人に話し掛けられるとどうしてよいか分からず困っていた生徒が、生単の授業でお客さんとのやりとりから学んだ「臨機応変」ということを思い出し、頑張って話せた。
- ・友達にあまり興味をもたなかった生徒が、話し合い活動で考えが一致することに喜びを感じ、他の授業でも友達の考えをしっかりと聞いたり、自分の考えを一生懸命伝えようとしてきたりするようになった。

### (2) 授業改善と実践

昨年度、授業作りのポイントとしてまとめたものを確認しながら授業作りを行った。

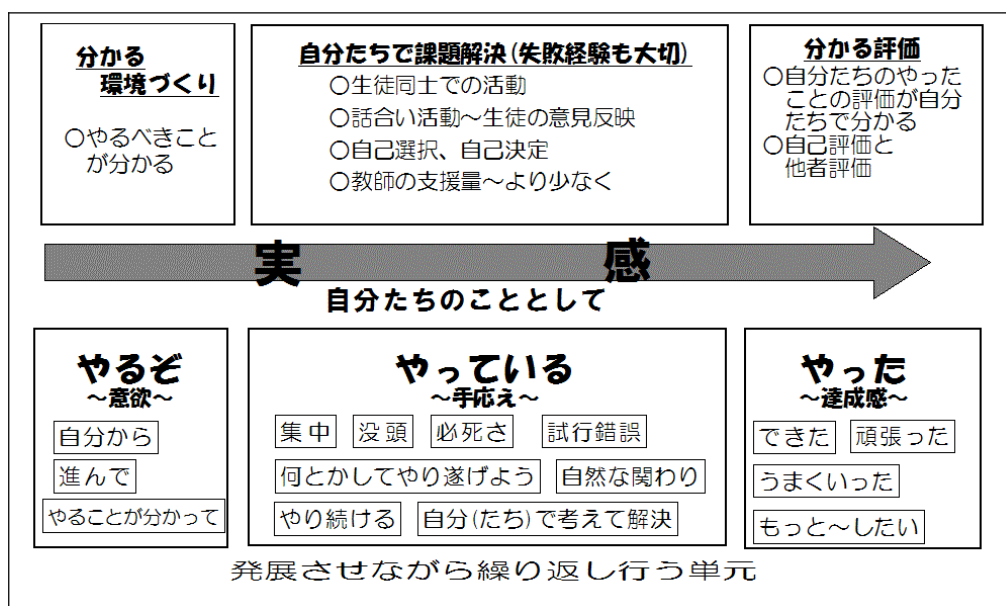


図 授業作りのポイント

生徒たちが「やるぞ」と意欲をもつために、分かる環境作りがなされているかという視点、「やっている」と主体性をもって活動に取り組むために、自分たちで課題解決できるようにしているかという視点、「やった」と達成感をもつために、分かる評価の視点、以上3つの視点を大切にしたい。意欲、主体性、達成感を大切にすることが実感につながると考えた。

その中で、「生徒の考えを、どのように吸い上げるか」「生徒の『やりたい』気持ちをもっと高めるためにはどのようにしたらよいか」という意識を教師がもつようになった。これは2年間、「実感」をテーマとして実践してきたからこそと考える。

### (3) 目標設定と評価

「目標を達成して、自分にはこんな力が身に付いた」と生徒が実感するためには、生徒による自己評価とともに、教師からの即時評価の工夫が有効であること、また、一時間一時間の積み重ねにより、単元を通してどのような力が身に付いたのかも生徒が感じられることが大切と考える。

生徒一人一人の変容の評価を考えたとき、目標の明確化が不可欠である。果たして、妥当な目標を設定できているか、そのためには実態把握がとても重要である。今後も評価、そして明確な目標設定を大切に、教師間の共通理解を図って取り組んでいきたい。

